

資料 1 「つくばバイオマスもみがら研究会」のマスコミ掲載記事

茨城県商工労働部いばらきサロンを事務局として、「つくばバイオマスもみがら研究会」が設立される。

2006年	1月	日経新聞掲載	つくば研究支援センターにて55社(者)のバイオベンチャーが集まり、「つくばバイオマスもみがら研究会」の設立準備委員会が開催される
2008年	4月	日経新聞掲載	有機農業の共同研究 微生物・もみ殻で防虫、収穫量向上をねらう
2008年	5月	日経新聞掲載	バイオマス技術 研究発表・交流会 つくば市内
2009年	9月	日経新聞掲載	茨城大学准教授 兼業で農業VB もみ殻使い有機農業推進
2009年	11月	現代農業掲載	特集 簡単モミガラ活用
2009年	12月	日経新聞掲載	多士彩彩 「半導体企業から農業へ」 藤田プロフィール
2010年	2月	日経新聞掲載	中国で有機農業指南 独自の堆肥技術など紹介
2010年	11月	日経新聞掲載	有機堆肥でコメおいしく もみ殻 微生物で急速発酵
2011年	5月	茨城県工業技術センター	2010年版成果集に採用される
2011年	2月	日経新聞掲載	パン用小麦の有機農法開始

資料 2 「つくばバイオマスもみがら研究会」開催実績

①	「つくばバイオマスもみがら研究会」	設立準備会	開催	
	日時:	2006年1月18日(水)	13:30 ~ 16:00	
	場所:	株つくば研究支援センター	研修室B	参加者 55名
②	第1回	「つくばバイオマスもみがら研究会」	開催	
	日時:	2006年 2月28 日(火)	13:30 ~ 16:00	
	場所:	株つくば研究支援センター	研修室A	参加者 51名
③	第2回	「つくばバイオマスもみがら研究会」	開催	
	日時:	2006年 4月26日(水)	13:15 ~ 17:00	
	場所:	(株)つくば研究支援センター	研修室A	参加者 52名
④	第3回	「つくばバイオマスもみがら研究会」	開催	
	日時:	2006年11月22日(水)	14:00 ~ 16:30	
	場所:	(株)つくば研究支援センター	研修室A	参加者 34名
⑤	第4回	「つくばバイオマスもみがら研究会」	開催	
	日時:	2007年7月 6日(水)	13:20 ~ 16:30	
	場所:	(株)つくば研究支援センター	研修室A	参加者 46名
⑥	第5回	「つくばバイオマスもみがら研究会」	開催	
	日時:	2008年5月21日(水)	13:30 ~ 16:30	
	場所:	(株)つくば研究支援センター	研修室B	参加者 52名
⑦	第6回	「つくばバイオマスもみがら研究会」	開催	
	日時:	2009年7月24日(金)	13:25 ~ 16:30	
	場所:	(株)つくば研究支援センター	研修室	参加者 34名
⑧	第7回	「つくばバイオマスもみがら研究会」	開催	
	日時:	2010平成22年6月4日(金)	13:30 ~ 16:45	
	場所:	つくば国際会議場	小会議室405	参加者 49名
⑨	第8回	つくばバイオマスもみがら研究会		
	日時:	2011年6月29日(水)	13:30 ~ 16:45	
	場所:	つくば研究支援センター	2階 研修室A	参加者:37名
⑩	第9回	つくばバイオマスもみがら研究会		
	日時:	2012年6月29日(金)		
	場所:	つくば研究支援センター	2階 研修室A	参加者:39名

設 立 趣 旨 書

2013年1月16日

特定非営利活動法人 バイオマスもみがら研究会
設立代表者住所又は居所
茨城県つくば市稲荷前8番7 メゾン赤塚103号
氏名 藤田哲史 印

1 趣 旨

現代、文部科学省の発表によると、化学肥料であるチッソ・リン酸・カリのリン酸とカリはほぼ100%が輸入であり、リン酸・カリの高騰と枯渇は日本農業にとって解決すべき大きな課題となっている。それでは化学肥料に代わるものはないのかと、と言うと未利用有機資源の多くは発酵させれば良い有機肥料になり、化学肥料の代わりになるが現在は埋め立てたり、クリーンセンターで燃やしたりしている。国は、バイオマスタウン構想を推進し、食品循環資源のリサイクル利用を進めているが、従来の発酵技術は個人の技量に依存していたり経験とカンで発酵熟成度を判断したりしている。2006年1月に発足した「つくばバイオマスもみがら研究会」の発酵技術の特徴は、難分解性のもみ殻を20日間程で発酵分解する発酵技術であり、発酵という作業を初めて工程管理出来るようにした技術である。また、本技術にてもみ殻を熟成発酵させる過程で微量元素である可溶性ケイ酸が増加することも成分分析の結果、確認されている。もみ殻は昔から篤農家によってさまざまな工夫のもとに活用されてきたのは、もみ殻の持つ植物繊維や可溶性ケイ酸が優れた土壌改良材になることを知っていたからであるが、いままで広く普及しなかったのはもみ殻を簡単に発酵させる技術がなかった、というのが本当のところであり、もみ殻は硬いので発酵しない、と言うのが多くの人の先入観になっていたりするからである。結果、もみ殻の持つケイ酸を活用するために燃やして灰にしたりクン炭にしたりして農地に還元しているが、これだけでは極めてモットイナイ活用の仕方である。「つくばバイオマスもみがら研究会」は、もみ殻を発酵分解する発酵技術を広く啓蒙し、伝え、発酵分解されたもみ殻による土作りを広める活動を行ってきた。しかし今、任意団体としての活動では社会的責任、信用、経済的契約等に限界が生じ、法人化が必要となった。そこで当団体（活動）は営利を目的としないことから、特定非営利活動法人が適正と考え設立することにしたものである。

2 申請に至るまでの経過

2006年1月18日	任意団体としての設立準備委員会開催
2006年2月28日	任意団体「つくばバイオマスもみがら研究会」として活動開始
2012年12月25日	特定非営利活動法人 研究会開催
2013年1月15日	特定非営利活動法人 バイオマスもみがら研究会設立準備会